

## 0. イノベーション創出都市を目指して(Ground Cityの磨き上げ)

Top City(都市の核となる大街区)を補完し、エリアを繋げ合う“Ground City(地域をつなぐ広場と街路のネットワーク)”の存在が、人が交流し文化が育つイノベーションの根源となります。

### Top City

=新たに形成された都市の先端エリア  
大規模開発による商業・オフィスなど最先端な都市機能



+

### Ground City

=地域をつなぐ広場や街路・歩行者領域のネットワーク  
ヒューマンスケールでの出会いと交流や多様な行動



||

イノベーション創出都市 大阪梅田

## 1. 目標

梅田地区のTop Cityの価値を閉ざさず、広場+街路のネットワークとして、周辺地域と価値を供与し合う舞台が“Ground City”。  
Top CityとGround Cityの共存により、「人のつながり」を育てあげ、梅田地区ならではの新たな都市魅力を創出することを目指します。



## 2. Core×Pathネットワーク

Ground Cityの活性化を目指し、“Core×Pathネットワーク”の抽出・評価を行いました。本構想の象徴的な歩行者空間である“梅田コネクトロード”を骨格に、梅田地区全体のCore(広場等)×Path(街路等)ネットワークを舞台とした、新たな都市魅力を創り出すことを目指します。

梅田コネクトロードから  
地域へ展開する  
Core×Pathネットワーク

### Core

Coreとは、人々の集まる要所となる駅や広場、街角のスポット等のオープンスペースを指します。梅田地区のCoreでは、人が集うだけでなくイベントや祭りが開かれています。



### Path

Pathとは、街路や路地、建築内通路等、人々が通行・滞留できるみちを指します。梅田地区にはエリア毎に様々なPathがあり、それがエリアの歴史や文化を物語ります。



### ●Core×Pathネットワークの抽出・評価のプロセス

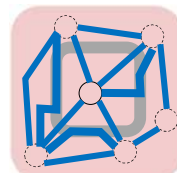
①視野を梅田地区全体に広げる



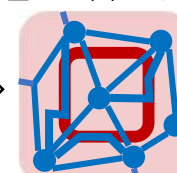
②Coreを抽出・評価する



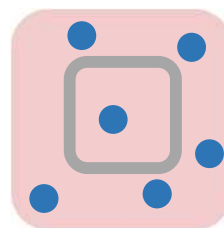
③CoreをつなぐPathを抽出・評価する



④Core×Pathネットワークを都市魅力基盤として位置づける



## 3. Coreの分析



Core毎にこれまでの取組を振り返り、将来のあるべき姿を考察。  
✓梅田地区エリアマネジメント実践連絡会あるいは会員各社がこれまで仕掛けてきたCore(広場、公共空間、民地など)を抽出  
✓各Coreにおいて、これまでの取組とこれからの目標(=ありたい姿)について整理  
✓各Coreにおける、今後主要としたいユーザーや提供したい感情を考察(“心地評価”※)を活用 ※裏面参照)



### ・検討例

**特徴** 梅田エリアの北端に位置し、まち歩きとショッピングの両方を楽しむことができる茶屋町に隣接。一定規模を有する公開空間が複数存在。植樹もあり、緑を感じる空間だが、普段はワーカーなどの通行空間にとどまっている。  
・主要ユーザー:通過(通勤・通学)  
・主な感情:安心感

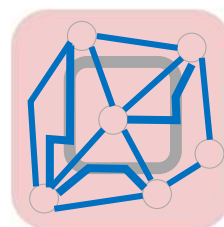


道路によりアプローチ側(豊富な空地、魅力ある文化資源、ガレリア)と分断している状態。

**特徴** 底地を大阪市が所有している都市計画施設(交通広場)。JR大阪駅中央北口正面と接続し、日常的なベンチ設置による滞留空間の形成やイベント実施により、賑わいづくりに取り組んでいる。  
また、スカイビル方面へのビュースポットとなっており、独自の都市景観を形成している。  
・主なターゲット:全て  
・主な感情:開放感



## 4. Pathの分析



CoreとCoreを繋ぐ動線“Path”(街路やデッキ、地下通路等)。また、その動線に続く重要な動線を含む)について、複数の選択肢を抽出し、それぞれの特長や課題を整理。  
✓Pathは、活性化や来街者増加などに大事な要素であることから、一般利用者に近い視点から評価  
✓Pathの評価においては、地上レベルに限らず、梅田地区特有の複層レベル(地下・地上・デッキ)を対象とし、特長を整理



### ・検討例

**Path②** グランフロント大阪～芝田～済生会病院を通るルート。拡幅された駅北2号線と新たに整備されたクラウドアパートを見て、静かで落ち着いた済生会病院を抜けることができる。

**Path③** グランフロント大阪2階デッキ～ナレッジプラザ～大阪梅田駅～JR日本橋本通公園～芝田を通るルート。梅田内の他のCoreを迂回し、梅田の街の魅力をさらに体感できるルートがあるもよいのではないかと。

**Path④** グランフロント大阪～芝田～大阪梅田駅～茶屋町を通るルート。地上1階の店舗の賑わいを感じられる。夜間も明るく、安心して通れる。一方で人混みも多いため、通行にややストレスを感じる。

**Path⑤** 大阪駅2階デッキ～LUCUA大阪～大阪梅田駅～茶屋町を通るルート。夏季の暑さをLUCUA大阪や大阪梅田駅を抜けることで和らげることができる。

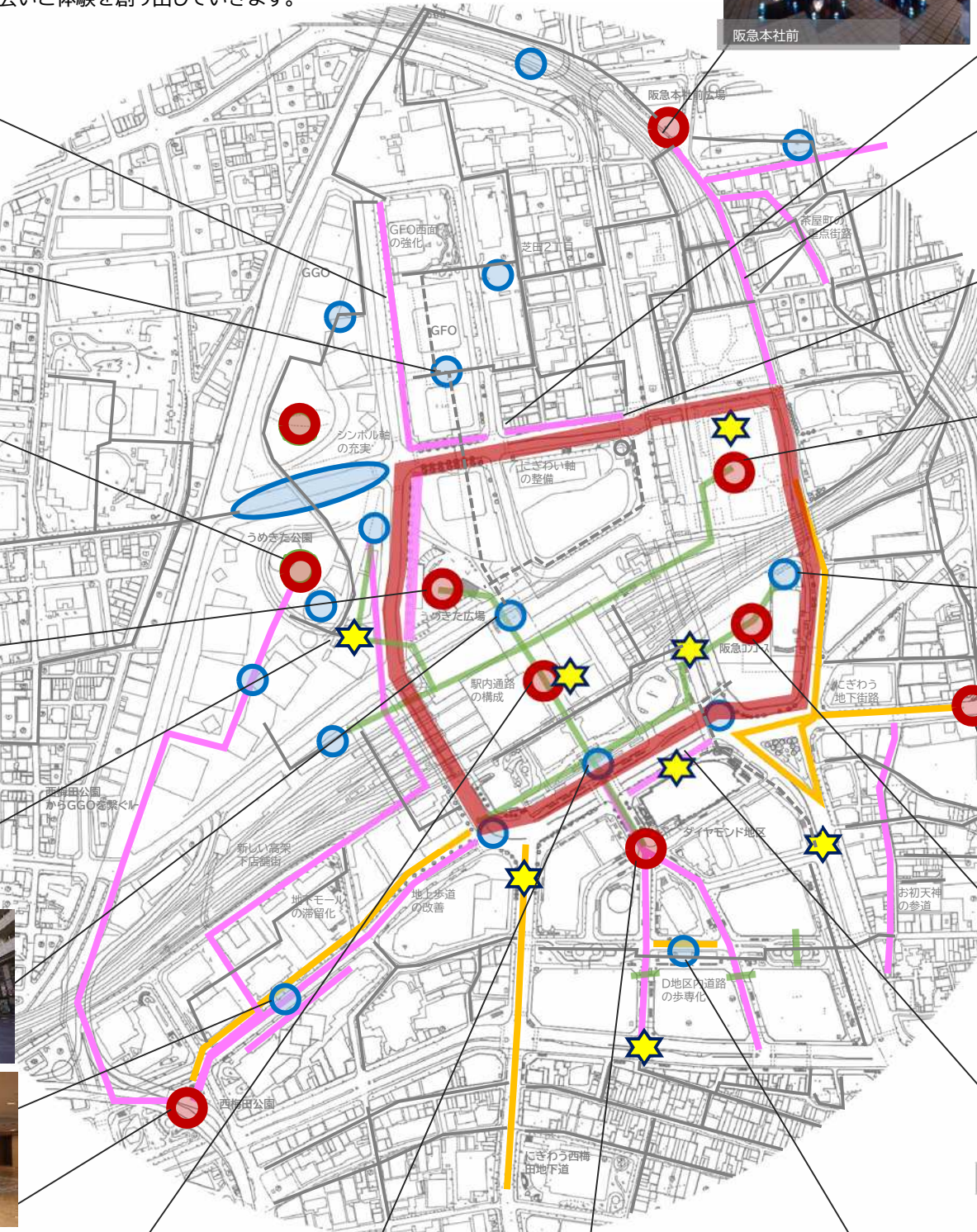
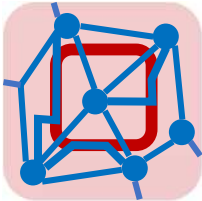
梅田は地上が歩きづらく、信号も少ないため、道路横断が困難。寄り道がなく、出発地の目的地が地下であれば、地下を移動したほうがスムーズなため。(大阪ダイヤモンドシティの地下に向かう場合)

阪急～JR間、JR～(大阪ダイヤモンドシティ)間は、大きな横断歩道があるため、地上ルートを記載。

阪急～阪神百貨店は空中デッキがあり、信号がないため、地上より歩行しやすく、景色が開けているため、地下に比べ視認性が良いため、空中デッキルート記載。

### 5. CoreとPathの統合

梅田コネクトロードに繋がるPathを通じて各エリアの魅力的なCoreへとつなげていくことで、エリア間の回遊を高め、多様な交流を促進させ、新たな出会いと体験を創り出していきます。



### 参考)心地評価

利用ユーザーによって、街との関わり・頻度が異なることから、都市に求めるシーンも異なります。シーンに対しての感情も、シンプルな感情(安心・安全等)から都市に親密化していく感情(高揚感・信頼感など)まで、段階があります。よって、都市のホスピタリティを高めるため、Core×Pathネットワークの検討において、この心地評価を活用しています。

シーン	感情の深さ					
	安心感 安全	清潔感 あこがれ オシャレ	開放感 落ち着き 癒し	高揚感・刺激的 受容・親近感 わくわく	優越感 自慢できる 隠れ家感	信頼感 退屈しない なんとなく
1 観光(外国)	●					
2 観光(国内)		●				
3 買い物 エンタメ・食事			●			
4 通過 (通勤・通学)			●			
5 梅田ワーカー 学生						●

シンプルな情報 情報からイメージへ イメージから体験へ 体験から体験へ 体験を我が物に 都市と自分の同化

### 6. Walkable UMEDA構想における「歩行者空間ビジョン」の再定義

- ①梅田地区の都市構造を改めて捉え直す  
梅田コネクトロードを起源とした梅田地区が誇るまち回遊  
(Core×Pathネットワーク構築)
- ②様々な心地よさを提供する歩行者空間“Core”の再形成
- ③エリアの特長と心地よさがにじみ出す“Path”の抽出による  
エリア価値の向上
- ④イノベーションの根源となる歩行者空間の創造

### 7. これからの展開

梅田地区エリアマネジメント実践連絡会では、本構想のより深い浸透に努めることで、各エリア内でのCore×Pathネットワークの展開に寄り添ってまいります。

<梅田地区エリアマネジメント実践連絡会>



<梅田地区の各エリア>

各エリアによる活性化とまちづくりの展開

